

古墳と埴輪が語る、瀬戸内航路の要衝・下松



「ほっとやまはく」 タイム⑬

天王森古墳出土の巫女形埴輪（下松市教委蔵）



大刀形埴輪・巫女埴輪の発掘状況(下 松市教委提供)



天王森古墳出土の家形埴輪（下松市教委蔵）

見ていましょう
①天王森古墳と継体天皇

や動物、家などをかたどった多数の埴輪が見つかっています。これらの埴輪は、第26代の繼体天皇の墓とされる、大阪府高槻市の今城塚古墳の埴輪と大変よく似ているのです。天王森古墳に葬られた人物は、繼体天皇と強いつながりを持つていた可能性が高いといえるでしょう。九州や朝鮮半島での戦いに派兵したヤマト王権を取り巻く政治状況が影響していたことも考えられます。おそらく、天然の良港である下松は、王権が瀬戸内海航路を通じて九州や朝鮮半島との往来をする際に重要な拠点となっていたのでしよう。

②埴輪が結ぶ、下松と朝鮮半島

さらに、下松市の市街地から北東に少し離れた丘陵上にあつた惣ヶ迫古墳（直径約16・5mの円墳）からも興味深い埴輪が見つかっています。惣ヶ迫古墳の埴輪のうち、特に朝顔形埴輪は、近年の研究によって朝鮮半島の埴輪と大変よく似ていることが分かり、朝鮮半島の工人が作ったという可能性も指摘され

山口県は三方を、西は響灘、北は日本海、南は瀬戸内海という海に囲まれています。この地理的な特性から、日本列島の海上交通において重要な位置を占めてきました。その歴

An aerial photograph showing a large-scale construction project. In the center of the image stands a massive, mature tree with a dense canopy of green leaves. The ground around the tree is a mix of brown dirt and light-colored gravel. To the left, a curved concrete road or driveway is under construction, with several yellow excavators and other construction vehicles visible on the dirt. The background shows a mix of residential buildings with grey roofs and larger industrial or commercial structures with parking lots. A road runs horizontally across the top of the image, with more construction activity visible along its edge. The overall scene depicts a significant urban or suburban development project.

天王森古墳の上空から下松湾を望む（下松市教委提供）

百濟から琳聖太子（大内氏の祖とされる）がやつて来たと言われています。この伝説から、「星が降った松」が「降り松」、「下松」と呼ばれるようになったそうです。

また、百濟の琳聖太子が渡来し、交易が開けたことにより、百済と貿易する港「百済津（くだらつ）」が「くだまつ」の地名になつたとも言われています。このような伝承や埴輪からは、ヤマト王権の交易港・軍事拠点であった下松の歴史的な重要性を知ることができます。

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。最新情報は
ホームページで。



阿部来（考古担当学
芸員）

催します。山口県を代表する埴輪と古墳を実際に見学できる貴重な機会として、皆さんのご参加をお待ちしています。

でも、10月5日には下
松市の協力の下、山口
大学埋蔵文化財資料館
との共催で、これらの
古墳や埴輪を見学する
「古代ウォーク」を開

の古墳や埴輪の調査研究を基にしたまちづくりの機運が高まっており、3D画像の公開や記念講演会などの取り組みが進められています。また、山口博物館

③調査研究と活用が
進む！